

市民の皆様へ～私の思い～

所沢市長 藤本正人



狭山ヶ丘中学校のクーラー設置をやめたことについて、これまで市議会での説明や市ホームページでその考えをお知らせしてきました。

こうしたなか、6月定例会市議会で「教育環境の改善を求める決議」が可決され、また市民からは、クーラーを予定通り設置するよう求める請願が出され、採択されました。私自身、その結果を重く受け止め、教室の風通しを良くするべく欄間を改修し、さらに教室内の騒音や温度の測定もさせていただきました。一般的に騒がしいと言われる70dB以上の音の1日当たりの回数や時間、そしてコストなどを総合的に考えると「クーラーを設置すべき」とはやはり思えなかったのです。

私は、これまでも教育を大切にしてきました。「教育は人」の考えから、今回、設置工事費を「学校運営マルチサポーター」など「人」に充て、教育環境の充実に取り組みました。財政厳しき折、ゼロベースから事業を見直すとともに、今後も、「モノから人」への視点で、よりよい教育環境の創出に努めてまいります。

東日本大震災、そして、福島第一原子力発電所事故を経て多くの人は、さまざまなことを感じたと思います。それは、知らぬ間に多くの原発に私たちは依存してきたこと。事故が起きたら人間の力では、どうしようもないという事実を目の当たりにしました。

東日本大震災、そして、福島第一原子力発電所事故を経て多くの人は、さまざまなことを感じたと思います。それは、知らぬ間に多くの原発に私たちは依存してきたこと。事故が起きたら人間の力では、どうしようもないという事実を目の当たりにしました。

理由1 今こそ『快適で便利な生活』を見直し、行動に移すべき！

平成24・25年度予定していた、狭山ヶ丘中学校へのクーラー設置工事を取りやめたことについては、新聞、テレビ等の報道でご存知のことと思います。

私は、以下三つの思いから、決断をさせていただきました。クーラー設置を待っていた人々を思うとき、苦渋の決断でありました。今号では改めてその思いをお知らせいたします。

国の補助金と市の借金をやめて 狭山ヶ丘中学校へのクーラー設置をとりやめた理由

理由2 狭山ヶ丘中学校の航空機騒音の測定結果 70dB以上は一日で21秒間でした

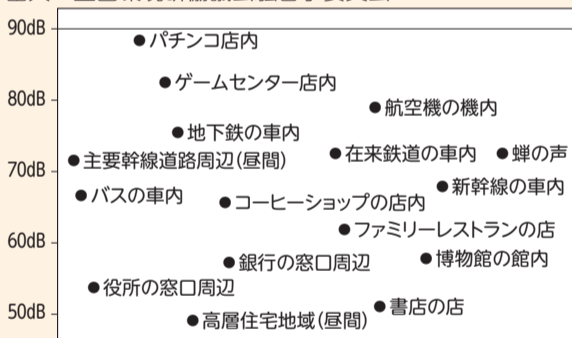
◆狭山ヶ丘中学校の航空機騒音の測定結果（測定日：9月3日～7日授業時間帯）

	航空機の飛来回数	測定回数	70dB以上の回数(A)	航空機騒音のピーク値			70dB以上		1日当たり		
				最大値dB	最小値dB	平均値dB	累積秒数(B)	1回当たりの秒数(B/A)	測定回数	70dB以上の回数	70dB以上の累積秒数
屋上	206	206	164 (79.6%)	96	61	75.0	1,640	10.0	41.2	32.8	328
教室		139※	24 (17.3%)	79	53	63.8	105	4.4	27.8	4.8	21

※…教室の測定回数については、教室内の音や声により記録データから航空機の音と判別できない場合には測定回数に含めないため、屋上との測定回数に差が生じています。

◆〈参考〉騒音の目安（都心・近郊用）

出典：全国環境研協議会騒音小委員会



◆飛行機が飛来していないときの狭山ヶ丘中学校の音環境

測定地点	音の状況
屋上	おおむね50dB
生徒がいない教室	おおむね50dB未満 (窓開放状態)
授業中の教室	おおむね50dB～70dB (窓開放状態)

◆市役所周辺の音の大きさ 測定日：9月10日

測定場所	最大値	平均値
市役所入口交差点 (自動車通過中)	81.8dB	70.4dB
市役所1階 国保年金課窓口周辺	63.9dB	54.8dB

狭山ヶ丘中学校へのクーラー設置について問題となった理由は、「暑さ」ではなく「入間基地に近いための騒音」です。騒音が原因で窓を開けたまま授業ができないので、夏はクーラーが必要ということでした。しかし、春でも多くの教室で窓を開けて授業を行っている現実がありました。

こうした状況を正確に把握するため「狭山ヶ丘中学校における航空機騒音測定」を行いました。その結果、一般的に多くの人が騒々しいと感じ

るレベルと考えられる70dB（デシベル）以上の航空機騒音は、授業時間帯に限れば、回数で1日当たり48回、累積秒数は、1日当たり21秒間でした。

◆環境対策課 ☎2998・9230

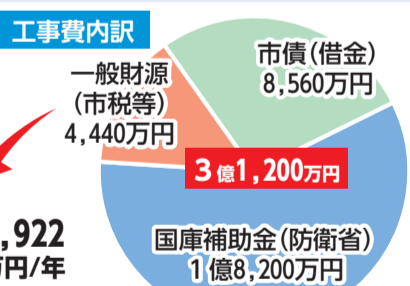
◆教室室内温度・保健室来室者数調査 調査の結果、他の中学校と比べて特段、狭山ヶ丘中学校だけ教室室内温度が高い、また保健室来室者が多いということは、ありませんでした。なお、狭山ヶ丘中学校では、風通しをよくするために欄間を改修し、扇風機の設置を行いました。

☎保健給食課 ☎2998・9249

理由3 税金の使い方としてよいのか？ 教育は「モノ」より「人」

狭山ヶ丘中学校の集中暖房・冷房工事費用 3億1,200万円

- ★補助金と借金を止め「教育」そのもの「人」に充てました！
- 中学校へは…
 - 学校運営マルチサポーター(6人)……1,017万円
 - 小学校へは…
 - 心のふれあい相談員(16人)……2,146万円
 - 特別支援学級へは…
 - 介助員(3人)……429万円
 - 消耗品費・教材費……330万円



※補助金の約半分、約9,000万円は借金(国債)と考えられます。

狭山ヶ丘中学校への工事は、国からの補助だけでは行えません。それに加え、市の一般財源からと借金を補う予定でした。国の一般会計の約半分が国債発行で賄われていることから、国からの補助金も約半分は借金と考えられます(左図参照)。

普通教室のクーラー稼働にかかるコスト

10年間使ったとして
 約1億4千万円(冷房工事費分) ÷ 1日のコスト
 290日(29日×10年) = **48万円**
 (稼働日数は平成23年度、宮前小学校の実績)

学校運営マルチサポーター

職務内容 ▶ 授業・行事への支援 ▶ 個々の生徒への支援 ▶ 校舎内外の環境整備等

成果 ▶ 生徒一人一人の能力や個性に応じた指導が可能に ▶ 教室復帰できた生徒も ▶ 生徒の笑顔が増えた ▶ 学習環境の向上

心のふれあい相談員

職務内容 ▶ 児童の悩み相談、不登校傾向児童への支援 ▶ 保護者との面談、電話相談等

成果 ▶ 担任との連携が円滑になり、より深い児童理解が可能に ▶ 児童の心に寄り添う教育相談体制の充実と迅速な対応が可能に

また、最も暑い時期の夏休みを除いたクーラーの稼働日数を年間29日ほどとすると1日当たり48万円(上図参照)の費用がかかります。これに加えて燃料・光熱水費がかかります。復興費用に莫大な費用を要する今、所沢市も財政は厳しく、全ての施策を見直す必要があります。「人」に予算を充てました。

補助金を断り借金をやめにして捻出した財源で、財政難で廃止された小学校の「心のふれあい相談員(16人)」を復活し、中学校には「学校運営マルチサポーター(6人)」を新設しました。さらに特別支援学級の施設にもない「介助員(3人)」を増員しました。

☎心のふれあい相談員・学校運営マルチサポーター配置事業：学校教育課 ☎2998・9238